

インクジェットプリンタ JV5 シリーズ

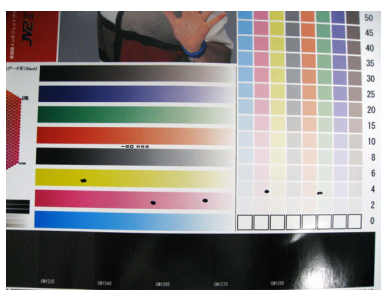
日常のお手入れのお願い

インクジェットプリンタは非常に微細なメカニズムを持つ精密機械です。特にインクを吐出するヘッドのノズル面は、わずかなホコリや紙粉の付着でも影響を及ぼし、正常な作図結果を得られなくなる可能性があります。

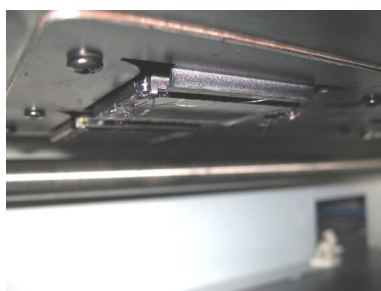
インクジェットプリンタをより良い状態でご使用いただくために、以下のお手入れを日常行われることをお勧めします。

1. このような状況にならないために（印刷物にこんなことが…）

マシンの清掃を行っていただかない状況が継続されると、以下のように印刷物へ影響が発生する可能性があります。メンテナンスの意味を十分に理解していただき、適切な清掃をしていただきますようお願いいたします。



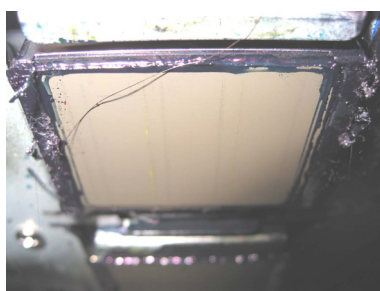
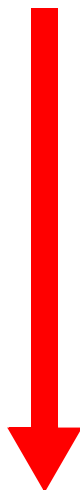
1. 印刷物の上にインク滴が落ちている。



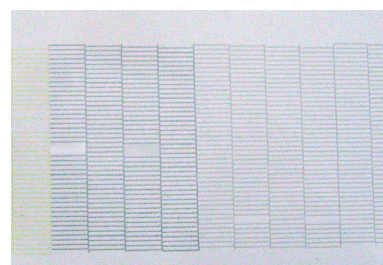
【原因】メディア上の埃が付着し、印刷中にインク粒を落下させることにより、印刷物を汚す可能性があります。



2. 印刷物の上にスジを引いたような跡が発生する。



【原因】細かい糸クズ等が付着し、それらにインクが付着した状態で印刷されると、印刷面上をこすられ、ヨゴレ等の原因になります。



3. クリーニングをしても、ノズル抜けが改善されない。



【原因】ワイピングできないヘッド端部でのインク堆積状態。クリーニング時にワイパーへ付着しノズル穴をふさぎ、吐出不良等の原因になります。

これらの不具合を回避するために、本書に記します清掃をこまめにしていただき、印刷作業を快適に行ってください。（以降、本書メンテナンス方法をお読みください）

2. 日常のお手入れ

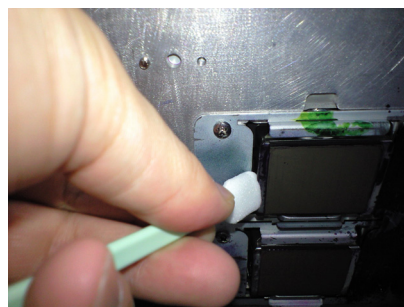


- ヘッド周辺/キャッピングステーション/ワイパーを清掃するときは、できるだけクリーンスティック (SPC-0527) をお使いください。
通常の綿棒をお使いになると、糸くずが残って二次障害を引き起こすことがあります。

(1) ヘッド周辺 (取扱説明書 4 章「ヘッド周辺の清掃」)

ヘッド周辺は、本装置の中で最も汚れがたまりやすく、本装置の動作や作図結果に影響を及ぼす恐れのある個所です。また、ヘッドそのものは非常に微細なメカニズムを採用しておりますので、お手入れには十分な注意が必要です。

スライダ下部、ヘッド周辺にゲル状になったインクや、ホコリが付着することがあります。クリーンスティックでこすり落としてください。この際、ヘッドのノズル部分は絶対にこすらないようにしてください。

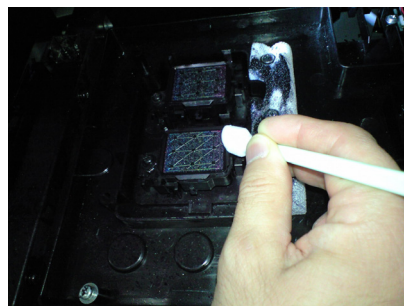


クリーンスティックで清掃する

(2) キャッピングステーション (取扱説明書 4 章「ワイパーとキャップの清掃」)

キャップ周辺も、ホコリやインクがたまりやすい場所です。ご使用のインクに適したメンテナンス用洗浄液を使用し、ヘッドに汚れが付着しないよう、こまめな清掃をお勧めします。

- ソルベントインクをお使いの場合：
メンテナンス洗浄液 MS2/ES3/HS キット (品番：SPC-0369)
- 水性インクをお使いの場合：
洗浄液ボトルキット A29(品番：SPC-0137)

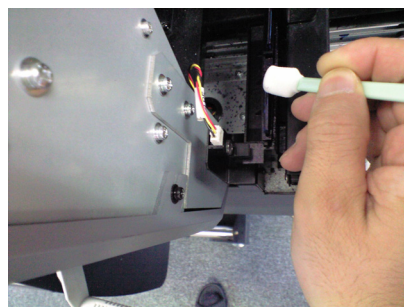


キャップ

(3) ワイパー (取扱説明書 4 章「ワイパーとキャップの清掃」)

ワイパーには、インク、ホコリおよび紙粉などがたまります。ワイパーの状態を確認し、汚れていたら清掃してください。

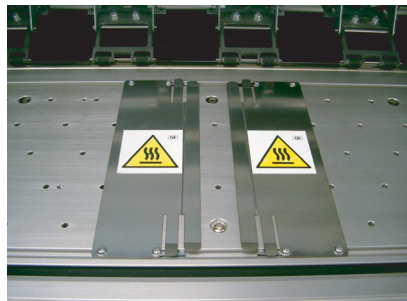
また、ワイパーが変形していた場合は「取扱説明書 4 章 ワイパーの交換 [ワイパーコウカン]」にしたがって、新品のワイパーと交換してください。



汚れた状態のワイパー

(4) メディア押さえ

メディアのカットくずやホコリがメディア押さえとプラテンの間にたまと、メディアの搬送が正常に行えなかったり、ノズルに付着して正常な作図ができなくなる恐れがあります。こまめに清掃してください。



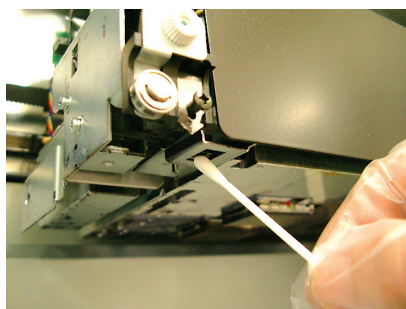
メディア押さえ



メディア押さえにホコリがついた状態

(5) メディアセンサー (取扱説明書 4 章「メディアセンサーの清掃」)

メディアセンサーにホコリやインクが付着すると、メディアの誤検知の原因になります。柔らかい布でふき取ってください。



ヘッドのメディアセンサー

(6) プラテン (取扱説明書 4 章「プラテンの清掃」)

プラテンは、ホコリ、紙粉、インク汚れが付着しやすい場所です。こまめに清掃してください。柔らかい毛のハケや乾いた布で、プラテン面およびプラテンカバーを拭いてください。メディア押さえ用の溝や、用紙カット用の溝 (カッターライン) などは特に汚れがたまりやすい場所です。入念に清掃してください。

(7) 外装 (取扱説明書 4 章「外装のお手入れ」)

使用環境により、本体の外装には塵や砂埃が付着することがあります。ヘッド移動部へのホコリの進入を防ぐために、柔らかい布に水を含ませ、固く絞ってからふき取ってください。

(8) 廃インクタンク (取扱説明書 4 章「廃インクが溜まったら」)

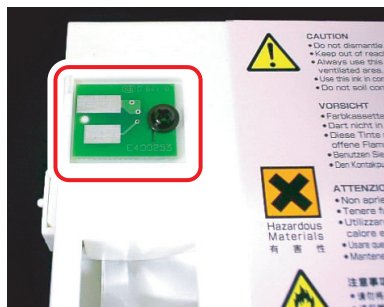
廃インクタンクが満杯になっていないか確認して、廃インクがあふれないように注意してください。

3. メディアの保管

メディアは、ほこりが付きにくく直射日光が当たらない場所に保管してください。また湿度も嫌いますので高温多湿な場所での保管は避けてください。

4. インクカートリッジの保管

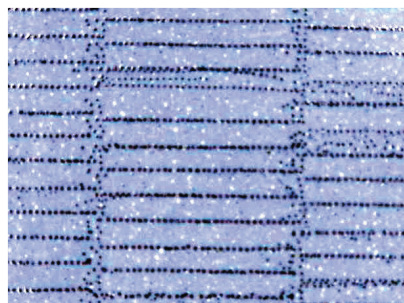
直射日光があたりず、湿度の高くない場所に保管してください。
精細な製品のため、カートリッジを落下させたりぶついたりしないでください。
インクカートリッジに装着されている基板は、汚したり、静電気放電させないでください。



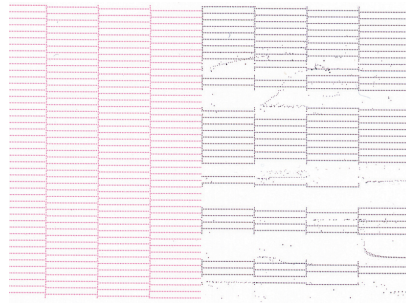
インクカートリッジに装着されている基板

5. 作図不良の例

ホコリなどを原因として発生するヘッド（ノズル）の吐出不良が、作図に及ぼす代表的な例を示します。
このような状態で使用しないように、出力前や出力中に定期的にノズルの状態を確認してください。
ノズルの状態は、本装置の「テスト作図」で確認できます。（取扱説明書 3 章「ノズル詰まりを確認 / 解消する」）



飛行曲がり



ノズル抜け



ポタ落ち



しぶき

6. フラッシング BOX のクリーニング

- 重要!** ■インクが皮膚に付着したり 目に入った場合は、直ちに水で十分に洗い流してください。
 ■必ず付属の手袋(ソルベント インクをご利用の場合)とゴーグルを着用して作業を行ってください。



必ず洗浄用インクカートリッジを装置背面のスロットにセットし、洗浄用インクを充填してください。洗浄用インクを充填していない場合や洗浄用インクが無い場合は、フラッシング BOX の自動洗浄が行えず、フラッシング BOX の寿命を縮める原因になります。

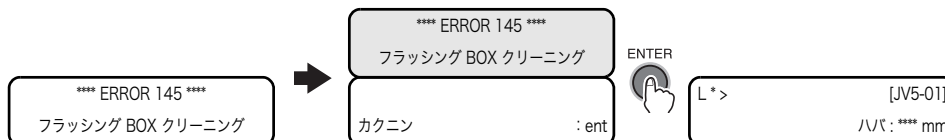
| お使いのインク | 使用洗浄用インクカートリッジ |
|------------|-----------------------------------|
| ES3 インク | MILD SOLVENT 洗浄液カートリッジ (SPC-0294) |
| HS インク | |
| エコ HS1 インク | |
| 水性顔料インク | 水性洗浄液カートリッジ (SPC-0259) [別売] |
| エコ水性顔料インク | |
| 昇華転写インク | |

(1) ワーニングメッセージについて

下記のワーニングメッセージが表示されたら、速やかに吸出しファン BOX フタを清掃してください。

L.1> [JV5-01]
 !フラッシングBOX クリーニング

- フラッシング BOX のクリーニングをせずに使い続けた場合、下記のエラーメッセージが表示され、1 データを作図するごとにローカルモードになり動作を停止します。ご使用中を中止して、速やかに吸出しファン BOX フタの清掃をしてください。



上記のワーニングメッセージの6回(昇華転写インクを除く水性インクをお使いの場合は8回)目を表示する時期がきたら、フラッシング BOX の交換が必要になります。フラッシング BOX 交換のお知らせは6段階(昇華転写インクを除く水性インクをお使いの場合は8段階)で行われます。

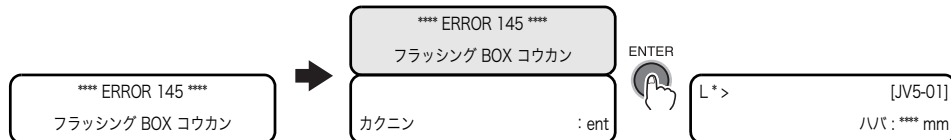
- 交換時期が近づくと、以下のメッセージが表示されます。
 フラッシング BOX の交換が必要です。弊社サービスおよび販売店へサービスコールしてください。

L.*> [JV5-01]
 !フラッシングBOX コウカン マチカ

- 交換時期になると、以下のメッセージが表示され、1 データ作図するごとにローカルモードになり動作を停止します。

L.*> [JV5-01]
!フラッシングBOX コウカン

- 交換時期を過ぎても交換せずに使い続けると、以下のメッセージが表示され、作図ができなくなります。フラッシングBOXの交換が必要です。弊社サービスおよび販売店へサービスコールしてください。



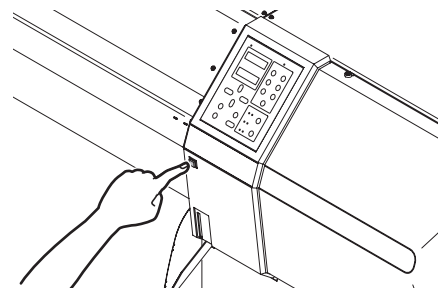
- ローカルモード時に【ENTER】キーを押すと、フラッシングBOXのクリーニングまたは交換が間近になっているか確認できます。



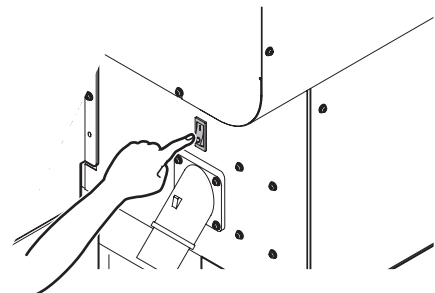
作業手順

- 重要!** ■ ポンプカバー T 内には制御基板やヒーター供給ハーネス等がありますので、必ず主電源スイッチを切ってください。

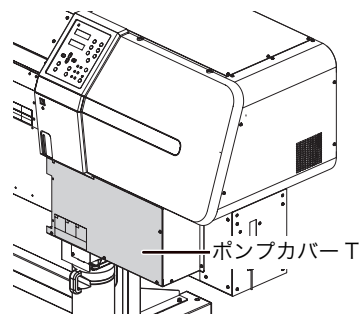
- 1 前面にある電源スイッチを押して、電源のオフを確認します。



- 2 本体背面の主電源スイッチを切ります。

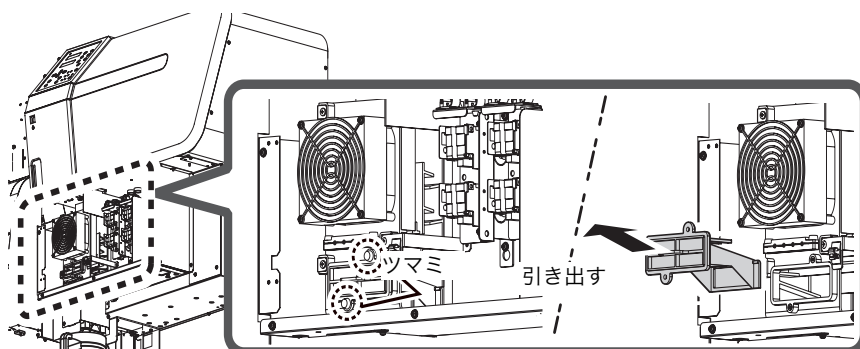
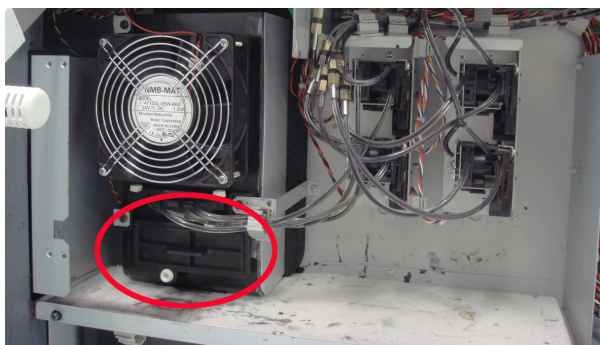


3 ポンプカバー T を開けます。



4 吸出しファン BOX フタを引き出します。

吸出しファン BOX をとめているツマミを外してから、ファン BOX フタを引き出します。



5 吸出しファン BOX フタに付着した汚れを取り除き、元のように取り付けます。

6 ポンプカバー T を閉め、電源を入れます。

7 ローカルモードになっていることを確認し、【FUNCTION】キーで【メンテナンス】を選択後、【ENTER】キーを押します。

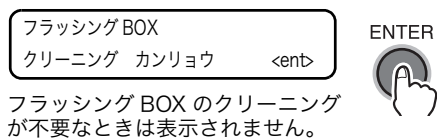
リモートモード時は【REMOTE】キーを押します。



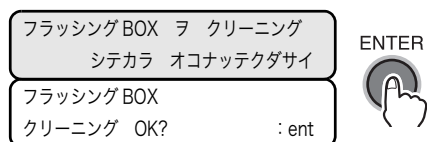
8 [▼] キーで、[フラッシング BOX] を選択し、【ENTER】 キーを押します。



9 [クリーニング カンリョウ] を選択し、【ENTER】 キーを押します。



10 【ENTER】 キーを押します。



11 【END】 キーを数回押します。

ローカルモードに戻ります。

7. ノズル吐出不良の回復方法

本装置を長時間使用しなかった場合や環境温度によっては、ノズルの吐出が不安定になる場合があります。

この場合、ノズルを回復させるために以下の方法があります。

1. 日ごろのお手入れ

本書に記載されている、各所のお手入れを行ってください。

2. ノーマルクリーニング (取扱説明書 3 章「ノズル詰まりを確認 / 解消する」)

前述のお手入れを行った後、取扱説明書の手順に従ってノーマルクリーニングを実行。クリーニングとテスト作図を繰り返し、ノズル抜けが無くなる事を確認。

3. ハードクリーニング (取扱説明書 3 章「ノズル詰まりを確認 / 解消する」)

数回ノーマルクリーニングを繰り返してもノズル抜けがなくなる場合、クリーニングモードをハードクリーニングにして同様の操作を実行。

4. ノズル洗浄 (取扱説明書 4 章「ノズルの洗浄 [ノズルセンジョウ]」)

これまでの手順を実施してもノズル抜け等が解消されない場合には、ノズル洗浄を行ってみてください。

1 分間のノズル洗浄を行った後、クリーニングとテスト作図を行ってください。

5. ノズル洗浄 (取扱説明書 4 章「ノズルの洗浄 [ノズルセンジョウ]」)

上記のノズル洗浄でノズル抜けが解消されない場合は、放置時間を 5 分間に設定して再度、洗浄 / キーニング / テスト作図を実施してください。

これまでの操作でノズル抜けが回復しない場合には、弊社または本装置をお買い上げいただいた販売店にサービスコールをしてください。

8. 定期的なお手入れ

本装置の精度を保ちながら末永くお使いいただけるよう、1 週間に 1 回、定期的にお手入れをしてください。

- ホカンセンジョウ
- PUMP チューブセンジョウ
- ワイパーセンジョウ

9. 長期間使用しない場合

1 週間以上使用しない場合は、保管洗浄機能を使用し、ヘッドのノズルとインクの排路をクリーニングしてください。その後、本装置を保管してください。

10. サプライ品のご案内

- クリーンスティック (品番 : SPC-0527)
- ソルベントワイパーキット (品番 : SPA-0125)
- ソルベントインクをお使いの場合 : メンテナンス洗浄液 MS2/ES3/HS キット (品番 : SPC-0369)
- 水性インクをお使いの場合 : 洗浄液ボトルキット A29 (品番 : SPC-0137)

11. 安全上のご注意

ご注意



JV5 プリンタに溶剤インクを充填してお使いの場合、お手入れの際は必ず**付属のゴーグルと手袋**を装着してください。



溶剤インクは、水やアルコールと混ざると凝集物が発生します。ノズル面、ヘッド周辺やキャップ、ワイパーなどに、水またはアルコールを付着させないようご注意ください。



本装置 (JV5) はインクの吐出安定性を確保するために、長時間使用 (出力) しないときは、充填するインク種によって定期的に微量のインクを吐出 (フラッシング) させる必要があります。

長時間使用しないときは、本装置の [ホカセンジョウ] 機能 (取扱説明書 4 章「長期間使用しない場合」) を実行してから、前面の電源スイッチのみを OFF にしてください。背面の主電源スイッチは ON (| の状態) およびコンセントは挿入した状態にしておいてください。



本装置を絶対に分解しないでください。感電、火災および破損の原因になります。



本装置の内部に水気が入らないようにしてください。内部が濡れると、感電、火災および破損の原因になります。



お手入れは、電源スイッチをオフにし、電源ケーブルを抜いてから行ってください。思わぬ事故が発生する原因になります。



ベンジン、シンナーや研磨剤の入った薬品は使用しないでください。カバーの表面が変質、変形する恐れがあります。



本装置の内部に潤滑油などを注油しないでください。プリンタ機構が故障する恐れがあります。

12. 設置環境

- できるだけホコリの少ない環境で使用してください。扇風機、送風機なども周囲のホコリを舞い立たせる原因です。
- 溶剤インクを使用する時は、換気のよい場所に設置してください。
- 使用環境は、+20 ~ +35 °C、35 ~ 65% Rh です。これより低温湿 / 高温湿でのご使用は避けてください。

memo



お問い合わせ先

株式会社 **ミマキエンジニアリング**

<http://www.mimaki.co.jp/>

テクニカルコールセンター

 **0120-106-114**

お問い合わせ時間： 午前 9:00 より午後 6:00 まで

営業日： 月曜日から金曜日まで（祝祭日を除く）